

基本理念：「安心できる暮らしの実現」											
全体目標		ライフステージごとの行動目標					評価指標 (主なもの)	計画策定時	目標値	令和4年度の現状と 取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性
生涯、健康に 暮らせるまちづくり		乳幼児期 (0～3歳)	幼児・児童・生徒 期 (4～15歳)	青年期 (16～39歳)	壮年期 (40～64歳)	高齢期 (65歳以上)					
基本方針		項目ごとの 重点目標									
重症化予防の徹底	がん	① がん死亡率の減少 ② がん検診受診率の向上	栄養・食生活 「主食・主菜・副菜をそろえた日本型の食生活や適切な食塩摂取量を理解し無理なく実践します」	早寝・早起き・朝ごはんを実践する 食品や献立に興味を持ち、いろいろな食事体験をする	早寝・早起き・朝ごはんを実践する バランスの良い食事をする	朝食を食べる 主食・主菜・副菜をそろえた食事をする 脂肪・糖分・塩分をとりすぎない 健康のための適正飲酒・休肝日を実践する				聖籠町まるごと食育推進計画参照	
	循環器疾患	①脳血管疾患・虚血性心疾患の死亡率の減少 ②高血圧有病者の増加の抑制 ③脂質代謝異常有病者の増加の抑制 ④特定健診受診率の向上 ⑤メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少	身体活動・運動 「いつまでも体を動かすことを楽しもう」	外へ出かける 通学時はしっかり歩く 親子遊びをとおして体を動かす楽しさを体験する	通学時はしっかり歩く 自分に適した体力の維持増進方法を身につける 様々なスポーツを体験する	自分に適した体力の維持方法を身につける 仕事以外に生きがいや趣味を持つ 運動やスポーツで人の輪を広げる	生きがいや趣味を続ける 地域活動等に積極的に参加する 日中は外に出て、積極的に歩く	意識的な運動の状況(いつもしている・時々している) 20～64歳 男性41.3% 女性31.3% 小学生51.8% 中学生51.0%	男性46.0% 女性40.0% 小学生57%以上 中学生57%以上		・高齢者は、地区によって運動教室を再開し、好評である。 ・小学生・中学生は、自宅学習時間や読書時間が減少しゲーム時間が増加している傾向があるものの、「体育以外の運動・体を動かす遊びを良くしている子ども」の割合は増加している。 ・電子メディアコントロールについて、地域学校保健委員会各部署共同で広報に記事を掲載した。 ・健康づくりでポイ活事業は、2年目となり初年度より応募者延べ・実共に増加。
	糖尿病	①糖尿病有病者の増加の抑制 ②血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上)の減少 ③合併症の減少(糖尿病腎症による新規透析導入患者数の減少)	こころの健康 「ストレスと上手につき合い、自分らしい生活しよう」	規則正しい生活リズムを身につける 母を中心とした他者との愛着をより深める	自分のからだとこころを大切に、他者への思いやりをもつ ライフスタイルに合わせた望ましいストレス対処方法を実践できる		睡眠の状況(あまりよく眠れない・不眠がちである) 20～64歳 ごころの不調への対処状況(どう対応したら良いかわからない) 職域メンタルヘルス対策実施企業・団体	男性35.1% 女性35.4% 男性20.4% 女性15.2%	男性31.0% 女性31.5% 男性18% 女性12%		・多職種に相談できる「お悩み相談会」は年3回の実施に増やし、利用者も増加した。 ・庁内自殺対策推進会議を立ち上げ、職員にゲートキーパーのミニ学習を実施。 ・商工会、東港立地企業連絡協議会で働き盛り世代の健康として資料を配布・健康教育を実施した。
	たばこ	「たばこの害を知り、喫煙防止・禁煙に取り組もう」	周りの大人が喫煙しない たばこの害について知識を持つ 喫煙をすすめても断る 周りの大人が喫煙しない	健康のために喫煙しない 禁煙に取り組む 喫煙者は周りに配慮ができる		妊婦の喫煙率 2.8% 未成年の喫煙率 1.90% 受動喫煙(行政機関) 1.80%					・母子手帳交付時に、喫煙状況アンケート実施し、家族も含めてパンフレットを用いて指導周知している。 ・総合健診喀たん検診受診者にリーフレットを配布。 ・公共施設に、禁煙や受動喫煙防止の啓発ポスターの掲示。
	健康維持・増進するための 取り組みの推進	アルコール 「アルコールの適量を知り、上手につき合おう」	母親が妊娠中・授乳中に飲酒をしない アルコールの害について知識を持つ 飲酒をすすめても断る 周りの大人が飲酒をすすめない	健康のための適正飲酒・休肝日を実践する		妊婦の飲酒率 0.0% 未成年の飲酒率 15.40% 飲酒頻度(毎日) 男性46.9% 女性12.1% 生活習慣病リスクが高まる量の飲酒 男性26.2% 女性13.9%					・母子手帳交付時、アルコール摂取状況アンケートを実施し、飲酒のリスク等を説明。 ・商工会・東港立地企業連絡協議会へアルコールと高血圧性疾患との関連を健康教育。 ・各集落健康相談会にて、働き盛り世代の健康課題を共有。
そ町民を主役の健康づくりと環境整備	① 健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ② 健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③ 地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④ 情報の発信 ⑤ 他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥ 民間企業と協働の取り組み	歯の健康 「いつまでも自分の歯で快適生活を送ろう」	寝かせた姿勢で仕上げみがきを行う おやつは大人が時間や内容を決め与える	食後と寝る前の歯みがきの習慣を身につける 小学校6年生まで1日1回は大人が仕上げみがきを行う むし歯は必ず歯科医院で治療を完了する	かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける 食後と寝る前の歯みがきの習慣を継続する 歯間ブラシ、デンタルフロス、舌ブラシ、フッ化物歯磨き粉等を使用し、歯間・口腔内を清掃する					聖籠町生涯歯科保健計画参照	
	健康管理 「自分の健康状態を知り、生活習慣病の早期発見・早期治療で重症化を予防しよう」	規則正しい生活リズムを家族ぐるみで実践できる 定期的な身体測定をし、周りの大人が生活習慣について考える機会を持つ	規則正しい生活リズムを家族ぐるみで実践できる 生活習慣病について学び、自分と家族の生活習慣を振り返ることができる 定期的に健康診査を受診する 健康診査結果等から自分の生活習慣を見直す	規則正しい生活リズムを実践する 定期的な身体測定・血圧測定をする 定期的に健康診査を受診する 健康診査結果等から自分の生活習慣を見直す	規則正しい生活リズムを実践する 定期的な身体測定・血圧測定をする 必要受療行動がとれる	活用塾参加者率 10.4% 聖籠町が実施する胃がん検診受診率 10.3% 聖籠町が実施する大腸がん検診受診率 15.7% 聖籠町が実施する子宮頸がん検診受診率 19.3% 聖籠町が実施する乳がん検診受診率 21.5%	13.0% 12.0% 18.0% 21.0% 23.0%	・町検診・職場・医療機関・人間ドックでの受診者を含めると、45・50・55歳のいずれの年齢も、胃がん検診・大腸がん検診の受診率は5割以上となった。検診受診率をさらに上げていくには、住民健診申込書で「受けたくない」と回答した方と「未回答」の方への効果的な働きかけが重要となってくる。毎年がん検診を受けることの必要性を周知するのはもちろんのこと、「受診勧奨対策等実行支援事業の活用」や「ポイ活との運動」も含めて、働きかけを検討していく。 ・受診率が低い大腸がん検診の精密検査(大腸内視鏡検査)への抵抗感を少しでもなくせるよう、広報等で精密検査の必要性と検査方法についての周知も検討する。			

基本理念：「安心できる暮らしの実現」				計画策定時	目標値	令和4年度の現状と取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性
基本目標	ライフステージに応じた行動目標	評価指標 (主なもの)		2017年	2022年		
<p>聖籠町の産物を活かし他職生活で、家庭や地域の健康とコミュニケーションを育てよう</p>							
基本方針							
<p>「命の原点」 食を通じた健康づくりを実践します</p>	<p>「乳幼児期」 ・早寝、早起き、朝ごはんを実践する ・食品や献立に興味を持ち、色々な食事体験をする ・一家団らんで楽しく、おいしく食事をすすめる</p>	朝食の欠食率	小学生	11.10%	0.00%	<p>・肥満度はコロナ化で数年前から悪化。徐々に増加傾向にある。感染対策に配慮した制限があったり、家庭で過ごす時間が増えていることもあり、生活習慣の変化、活動量の低下等の影響を引きずっていていると考えられる。</p> <p>○個別に肥満解消に向けて希望者の面談等の支援や小中学校における食育授業の充実を図った。</p> <p>○減塩生活の意識づけと定着に向け、減塩月間を継続実施している。連携して取り組む飲食店を増やし、また「健診結果活用塾」や「学校給食」「健康づくり支援店との協働」「町立図書館」との連携を継続している。</p> <p>○医療機関連携は国保診療所では情報提供コーナー、個別栄養指導、聖籠病院は医師の講演会やケースを通して連携を強化している。</p> <p>○新規に町の「健康づく支援店登録事業」を立上げ、6店舗登録した。</p> <p>○アンケートで、設問表示が変更されたため評価はできないが、「1人で(子どもだけで)食事をする者の割合」はこども園、中学生で下がっている。1日1回も大人と一緒に食事を取っていない者は小、中学生になるとまだ高い。</p> <p>○今年度から、学校給食の内容をホームページに掲載し、給食だより等も充実させ、情報発信の強化を図っている。</p>	<p>保育園の民営化に伴い、食育事業はそれぞれで実施している状況となり、一本化が難しいが、町と協働する取組を増やしていく予定。</p> <p>生活習慣病予防として健康的な食生活を実践する人を増やすためには、地域や地元企業や飲食店等の参加協力をさらに進め、地元野菜摂取や減塩生活を進める機会を増やしていくことが必要となる。町健康づくり支援店の登録を進め、さらに展開し、「ポイ活事業」ともつなげていく。</p> <p>共食や積極的に食育に意識的に取り組めるよう家庭への働きかけが必要である。</p>
			中学生	9.60%	0.00%		
			男性20歳代	28.0%	15.0%以下		
			男性30歳代	26.8%	15.0%以下		
			女性20歳代	11.9%	現状値以下		
			女性30歳代	6.8%	5.0%以下		
		1日2回は主食・主菜・副菜のある食事をすすめる人の割合	男性	68.1%	80.0%		
			女性	77.6%	80.0%		
		野菜・きのこ・海藻を1日に3皿以上食べる人の割合	男性	21.7%	現状値以上		
			女性	39.8%	現状値以上		
減塩に取り組んでいる人の割合	男性	42.8%	47.1%				
	女性	64.9%	71.4%				
学校給食における聖籠産物使用割合		*2	現状値維持				
		野菜20.3%	現状値維持				
食材の安全性や生産地等の考慮(いつもしている)	男性	16.3%	50%以上				
	女性	33.7%	50%以上				
町の健康づくり事業に協働する健康づくり支援店等		2店舗	5店舗				
食に関するサポーターの増加	食生活改善推進協議会会員数	27名	現状維持				
	地域支援登録者数(食文化郷土・)	78名	100名				
食育への関心(関心がある・どちらかといえば関心がある)		62.9%	69.2%				
食育の実践度(積極的、できるだけするようにしている)(再掲)		28.1%	60%				
1人で(子どもだけで)食事をすすめる者の割合	こども園	20.0%	現状値以下				
	小学校	19.3%					
	中学校	35.0%					



基本理念：「安心できる暮らしの実現」		評価指標 (主なもの)		計画策定時	目標値	令和4年度の現状と 取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性
基本目標	ライフステージに応じた行動目標			2017年	2022年		
いつまでも自分の歯で快適な生活を送ろう							
基本方針							
『むし歯・歯周病予防と口腔機能維持の徹底』	「乳幼児期」 ・寝かせた姿勢で仕上げみがきを行う ・おやつ（間食）は大人が時間や内容を決め与える ・食べ物をよく噛んで食べる  「園児・児童・生徒期」 ・食後と寝る前の歯みがき習慣を身につける ・小学校6年生まで1日1回は大人が仕上げみがきを行う ・むし歯は必ず歯科医院で治療を完了する ・望ましい食事と間食の習慣を身につける ・食べ物をよく噛んで食べる  「青年期・壮年期・高齢期」 ・かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける ・食後と寝る前の歯みがきの習慣を継続する ・歯間ブラシ、デンタルフロス、舌ブラシ、フッ化物歯みがき粉等を使用し、歯間・口腔内を清掃する ・歯や口の健康を維持するバランスのとれた食事と間食を実践する ・一口30回は噛んで食べる習慣を身につける	歯石の除去や歯面清掃の歯科医院での受診(定期的に行っている)	全体	19.00%	25.00%	・幼児歯科健診、フッ化物塗布継続して実施。 ・妊婦歯科健診をマタニティ教室と離して2歳6ヶ月児と3歳6ヶ月児歯科健診と同日実施(予約制)。 ・町保健推進員と地域のお茶の間(通いの場)を対象に、歯科衛生士による高齢者オーラルフレイル予防の健康講話を実施。 ・地域学校保健委員会が開催され、町の子どもの歯・口腔の健康について共有。せいろ幼稚園フッ化物洗口再開、R5.2月～町内小中学校のフッ化物洗口再開。  ・3歳児むし歯有病率も昨年よりも改善しているが、目標値に至らず。引き続きおやつや甘味飲料などの生活習慣の指導が必要な状態。 ・子どものむし歯と並行して成人歯科健診、後期高齢者歯科健診を実施し、家族全体で歯・口腔機能の維持を図っているが、現時点での後期高齢者歯科健診受診率が12%に対し、成人歯科健診受診率は10%と成人期が課題。後期高齢者歯科健診は昨年よりも受診者数は増加。 ・地域のお茶の間に歯科衛生士によるオーラルフレイル予防に関する講座も好評であるが、来場者は日頃から健康に意識が高い人が来ている傾向もある。  ・成人歯科健診開始年齢を30歳代に引き下げ、若い年代へ働きかける取り組みを充実させていく。 ・引き続き、子どもから高齢者まであらゆる世代へのアプローチを行い歯周疾患・齲歯・オーラルフレイル予防を図っていく必要がある。	
		自分の歯の本数	24本以上60歳(55歳～64歳)	81.10%	90.00%		
			20本以上70歳(65歳～74歳)	62.30%	65.00%		
			20本以上80歳(75歳～84歳)	32.30%	35.00%		
			歯みがき時の歯間部清掃器具の使用	全体	45.10%		50.00%
			一口30回かんで食べる意識	全体	14.00%		15.00%
		過去1年間に歯科健康診査を受診した者の増加	全体	52.20%	55.00%		
		むし歯のない3歳の割合	全体	*1 95.7%	96.00%		
		甘味飲料を飲まない3歳児	全体	12.60%	31.00%		
		フッ化物歯面塗布を受けたことがある幼児の割合(1～4歳)	全体	*1 88.20%	90.00%		
		むし歯のない5歳の割合	全体	*1 62.00%	68.00%		
		仕上げみがきがされている幼児の割合(こども園児)	全体	86.00%	95.00%		
		12歳児一人平均むし歯本数	全体	*1 1.13本	1.00本		
12歳児のう蝕のない者の増加	全体	*1 53.90%	59.00%				
妊婦歯科健診の受診率	全体	29.00%	40.00%				
成人歯科歯周疾患健診の受診率	全体	11.20%	12.00%				
在宅用介護者等訪問歯科健診の件数(県事業)	全体	0件	増加				

\*1 平成28年度  
\*2 平成29年度